

第1学年 図画工作科 学習指導案 A表現(2)

題材名:「がったい! はこはこロボットとうじょう!」

- 1 日 時 平成29年11月17日(金) 第3校時 10時~11時
2 学 年 第1学年1組 18名 自閉症・情緒障害特別支援学級 1名
3 場 所 第1学年1組 教室

3つの関わり

題材との関わり

アートのスイッチが入る提案の言葉

みんなで集めた箱がこんなにたくさんあるね。これは、この箱たちを合体してつくった「はこはこロボットパックン」です。パックンは、友達がなくてさみしがっています。パックンが話をしたいようです。「箱ランドに住んでいるパックンです。ハンバーグをパックンと食べるのが好きです。ぼくと遊んでほしいな。」さあ、パックンの友達ロボットを、箱を合体させてつくってあげましょう。

仲間との関わり

- 自分がどんなロボットをつくるか話し合わせ、イメージをもてるようにする。友達の意見を聞き、発想のよさを感じ合わせ、発想が広がるようにする。
- 試行錯誤をして表せるように、作る時間を十分確保し、つくる活動の途中で友達と作品を見合い、アドバイスする時間をとる。

作品との関わり

- 形や色などを視点に児童と対話しながら、思いを把握して座席表に記入し、活動が停滞している児童へ他の児童の工夫を紹介するなどして支援に生かす。
- つくったロボットの自己紹介をする中で、友達の作品のよさを見つけて「いいねカード」を書かせる。

であう

面白そう。早くロボットをつくりたいな。かっこいいロボットをつくりたい!

さぐる

こんなふうに箱を積んだらロボットができそう。この箱をつけたらいいかも。

みつめる

足をこれにしたらうまく立った。〇〇くんのやり方でやろう。

あらわす

いい形になったよ。家の人に見せたい。いろいろやってみてよかった。

あじわう

いろいろなロボットができてうれしい。また箱で何かつくってみたい。

つくりだす喜びを味わう児童

題材について

本題材は、小学校学習指導要領図画工作第1学年及び第2学年の内容 A 表現(2)を受け、特に「好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。」に重点を置いて設定している。

本題材では、日常生活で簡単に手に入り、形も大きさも色合いも多種多様で軽くて扱いやすい低学年の児童に適した素材である「箱」を主たる材料として扱う。この身近な材料である空き箱をどんどん並べたり、積んだり、つないだりすることによって、その形や色などから想像を広げ、思い付いたロボットをつくっていく。様々な箱を準備させ、箱の形や色の組合せ方を考えることで発想が広がっていく題材である。また、自分が表したいことを表現する楽しさや充実感を感じることができる題材である。

児童の実態について

「図画工作科の勉強が好き。」という児童は79%であるが、活動には意欲的に取り組む児童が多い。図画工作科が好きである理由として、つくることが好きだとあげる児童が多い。しかし、「みんながびっくりするようなアイデアを考えるのは楽しい。」という児童は68%であり、少ない。その要因として、発想を広げて活動することに重点を置いて指導したことが少なかったと考えられる。

これまで、表現(2)では、主に粘土を使って立体に表してきた。「ひもひもねんど」では、粘土をひも状にすることから思い付いたことを、楽しみながら自らの思いを表現した。しかし、中にはひも状から何をつくれればよいか思い付かない児童が数名おり、班で交流したりつくっている途中で全体で見合ったりすることでつくる物を思い付き、発想を広げられる児童もいた。

指導にあたって

題材との出会いでは、あらかじめ教師がつくった、箱の形に着目して組み合わせたロボットを提示することにより、ロボットをどうつくるかイメージできるようにした上で、友達ロボットをつくらうと投げかけ、意欲を高める。

集めておいた箱は、個人で持つておくと同時に、材料コーナーにも用意しておき、いろんな形や大きさの箱を十分に準備する。そして、児童が必要に応じて選べるようにしておく。

第一次では、つくりたいものが見付けられるように、箱を並べたり積んだりする活動を十分楽しめるようにする。

第二次では、箱の並べ方、積み方、組合わせ方をかえると新たな形が生まれ、また違う形に見えることに気付かせ、発想が広がるようにする。また、ロボットの名前やどんな特徴があるかなど、自分がどんなロボットをつくるか話し合わせ、イメージを持てるようにする。友達の意見を聞き、発想のよさを感じ合わせ、発想が広がるようにする。

児童が好きな色を選んだり、納得するまでつくり直したり、試行錯誤をして表したりすることができる過程を

大切にするために、つくる時間を十分確保するとともに、つくる活動の途中で友達と作品を見合い、アドバイスし合う時間をとる。また、形や色などを視点に対話し、児童の思いを引き出しながら支援をする。

第三次では、つくったロボットの自己紹介をし合い、箱の使い方や組合せ方など面白い所や工夫を見つけて「いいねカード」に書き、そのカードを友達がつくったロボットに貼りながら、話し合う機会をつくる。

題材の目標及び評価規準

<p>題材の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 箱を組み合わせて立体に表すことを楽しもうとすることができる。【関・意・態】 ○ 箱を並べたり積んだりしながら、表したい形を考えることができる。【発・構】 ○ 表したい形になるように、箱の組合せ方や接着の方法を工夫することができる。【技】 ○ 作品について話したり聞いたりしながら、組み合わせてできたものの面白さに気付くことができる。【鑑】

題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
・箱を組み合わせて立体に表すことを楽しもうとしている。	・箱を並べたり積んだりしながら、表したい形を考えている。	・表したい形になるように、箱の組合せ方や接着の方法を工夫している。	・自分の作品について話したり、友達の話を聞いたりしながら、組み合わせてできたものの面白さに気付いている。

指導と評価の計画

(全5時間)

次	学 習 内 容(時間)	評 価					評 価 規 準	評 価 方 法
		関	発	創	鑑			
第 一 次	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> はこをならべたりつんだりしながら、はこをくみあわせて、どんなともだちロボットをつくるか、かんがえよう。 </div> ○パッケンの友達ロボットをつくるために、箱を並べたり積んだりする活動を楽しむ。(1)	◎					◎箱を並べたり積んだりしながら、箱を組み合わせることを楽しもうとしている。	行動観察, 発言
であう								

	<p>○箱の組合せを考え、どんな友達ロボットをつくるか考える。(1)</p>	◎		◎箱を並べたり積んだりしながら、箱の組合せを考え、どんな友達ロボットをつくるか考えている。	発言、アイディアスケッチ
さぐる	<p>はこのくみあわせかたやくっつけかたをくふうして、ともだちロボットをつくらう。</p> <p>○自分の考えたロボットの形に合わせて、箱の積み方やつなぎ方、組合せ方を考えて、友達のアドバイスを取り入れながら、ロボットをつくる。(2)【本時3/5】</p>	◎	◎	◎箱を並べたり積んだりしながら、箱の組合せを考え、どんな友達ロボットをつくるか考えている。 ○自分がつくりたいロボットの形になるように、箱の組合せ方や接着の方法を工夫している。	発言、作品 発言、ワークシート、作品、自己紹介カード
第二次					
みつける					
あらわす					
第三次	<p>ともだちとロボットをみあって、いいところを見つけよう。</p> <p>○つくったロボットの自己紹介をし合い、つくったロボットのよさについて友達と話す。(1)</p>	◎	◎	◎自分の作品について話したり、友達の話を聞いたりしながら、組み合わせでできたロボットの面白さに気付いている。	発言、いいねカード
あじわう					

本時の展開

(1) 本時の目標 自分がつくりたいロボットの形になるように、箱の組合せ方や接着の方法を工夫して、ロボットをつくることができる。

(2) 準備物

〔指導者〕 空き箱、セロハンテープ、木工用接着剤、化学接着剤、粘着テープ(クラフトテープ、布テープ)、両面テープ、洗濯ばさみ、サインペン、ペットボトルの蓋、トイレトペーパーの芯、ひも、毛糸、綿、フルーツキャップ、デザートカップ、ワークシート

〔児童〕 空き箱、セロハンテープ、はさみ、クレヨン

(3) 展開 (本時3/5)

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	主 な 評 価 規 準 【観点】(方法)
1 自分がつくりたいロボットを思い出し、本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が思い付いたロボットを書いたものを提示し、活動に期待感がもてるようにする。 ・どの箱を組み合わせてつくるのか前で示させ、箱同士をどのように接着したらよいか着目させる。 ・めあてを確認した後、つくったロボットの工夫したところを伝え合うことを伝える。 	
◎ はこの くみあわせかたや くっつけかたを くふうして、ともだちロボットをつくろう。		
2 箱同士の接着の仕方について確認する。 ・接着剤、粘着テープ、両面テープの3通りの方法を確認する。 「ボンドでやってみよう」 「両面テープでやったらきれいに見えるぞうだな」 3 箱を組み合わせてイメージしたロボットをつくる。 ・自分がつくりたいロボットになるように、箱を組み合わせて形にする。 「あの方法で箱をくっつけよう」 「うまくくっつかないな」	<ul style="list-style-type: none"> ・接着剤、ループ状にした粘着テープ、両面テープの3つの接着方法を実演して、それぞれの特性をおさえる。 ・床も使って活動できるように、机配置を工夫する。 ・自分がつくるロボットの状況に応じて、適した接着方法を選択させ、使い分けるようにする。 ・箱以外の材料を工夫して使わせ、より 	

<p>「このキャップを目にしよう」 「足をこれにしたらうまく立った。これでパクンと遊べるぞ」</p> <p>・相談タイムに友達とつくっているロボットを見合う。</p> <p>【仲間同士と関わり合う場面】 自分がつくっているロボットを紹介して友達と作品を見合い、困っていることを相談し、アドバイスする。</p> <p>・相談タイムで学んだことを生かして、ロボットを工夫してつくる。 「〇〇くんが言ってくれた方法でくっつけてみよう」 「〇〇さんが飛べるようにプロペラをつけていて面白いな」 「ぼくも付け加えてみよう」</p> <p>4 本時のまとめをし、次時への意欲をもつ。</p>	<p>イメージしたロボットに近付かせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫してつくっている児童のロボットを紹介し、どんな工夫をしているのか気付かせるようにする。 ・つくりながら班で自然に見合ったり聞いたりできる雰囲気づくりをする。 <p><C 児への手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話しながら児童の思いをとらえ、認め励まし、つくる意欲を高めるようにする。 ・班ごとに自分がつくったロボットを紹介し、困っていることを相談する時間を取り、友達にアドバイスを伝えさせる。 ・班の交流の中で出たアドバイスを全体でも出させる。また、解決できなかったことについては、全体で考えるよう投げかけをする。 ・クラスみんなの作品を歩いて見て回る時間もとる。 ・よりよい工夫をしている児童をしっかり評価する。 <p><C 児への手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品の工夫やアドバイスを思い出させる。 ・対話して思いを引き出しながら、提案した方法から選択させてつくらせる。 <p>・この時間でどんな工夫ができるようになったのか振り返らせ、評価する。</p>	<p>【発想や構想の能力】 箱を並べたり積んだりしながら、箱の組合せを考え、どんな友達ロボットをつくるか考えている。 (発言、作品)</p> <p>【創造的な技能】 自分がつくりたいロボットの形になるように、箱の組合せ方や接着の方法を工夫している。 (発言、ワークシート、作品)</p>
<p>児童のまとめ例 とんであそべるロボットになるように、はこをプロペラみたいにくみあわせることができました。 はこはこがしっかりくっつくように、くっつけることができました。</p>		

(4) 板書計画

11/17 がったい！はこはこロボットとうじょう！

かんがえよう

いろいろやってみよう

④はこの くみあわせかたや くっつけかたをくふうして、ともだち
ロボットをつくろう。

こんなロボットをつくりたい！

アイデア
スケッチ

アイデア
スケッチ

アイデア
スケッチ

<はこはここのくっつけかた>

① ボンドをつかう

- ・ボンドをうすくぬって30
かぞえてくっつける。
- ・くっつけたら30かぞえて
おさえる。

② ねんちやくテープをつかう

- ・きったテープをわっかに
してくっつける。

③ りょうめんテープをつかう

- ・テープをきったらはこにはる。
それからかみをはがしてくっつけ
る。